

# 芋川流域の2大河道閉塞 ビフォーアフター

(東竹沢・寺野地区)  
2004年・2012年



地震で発生した東竹沢地区の地すべり。

Q:どんな災害だった？

A:地すべりが発生し、芋川を塞ぎ、上流側では水がたまり始めた。

地すべりは、幅295m、長さ350m、深さ30m、

動いた土砂の量は約130立法メートル(東京ドーム1杯以上)

上部の移動距離は70m、下部は対岸に乗り上げ。



#### ①H16以前の写真との比較

土塊に乗っている樹木や畑がそのままずりおちた  
地すべりは川の流れも道路も遮断してしまった。

川が詰まってしまうのは上流にも、下流にもたいへん危険なこと。

しかし地すべりは大きな土砂を動かして平坦地を作る。

#### ②現在との比較

川の流れが戻り、国道が復旧して通行が再開した。

地すべりが安定したことで、広大な土地と水辺が生まれた。

(ただし、活用には制限がある)



H24.8.22 東竹沢地区

Q;どんな工事をしたか？

A: 緊急的にはポンプ排水。

並行して土砂を取り除いて水路(川)を開削  
地すべり土砂は2基の砂防堰堤で押さえた。  
斜面は緑に。前沢川も整備。



Q:どんな災害だった？

A:地震で地すべりが発生。

幅230m、長さ360m、深さ25m、

動いた土砂の量は約104万立法メートル(東竹沢の約8割)

地すべりは対岸に先端部を押し付けて停止。

土塊に乗っていた道が細かく割れてズタズタになっている。



H16.10.25



H24.8.22

寺野地区ビフォー  
アフター

現在と比較したビフォーアフター  
地すべり地は緑になり、周辺の養鯉池や棚田が復活。  
当時のようすが想像できないほど。



H24.8.22 寺野地区

Q:どんな工事をしたか？

A:こちらも、緊急的にはポンプ排水。

並行して土砂を取り除いて水路(川)を開削。

地すべり土砂はここでは3基の砂防堰堤でおさえた。

## 芋川流域の 2大河道閉塞



寺野地区



東竹沢地区

平成24年8月

それぞれ砂防堰堤が地すべりの土砂を止めている。

Q:ここに上流から土石流が流れてきたらどうなる？

A:ダム湖で止まる。湖は埋まっていく。

Q:川が埋まることの効果は？

A:地すべりや川岸の侵食が止まり、山が安定すること。